

P126c 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(5)

山村一誠 (ISAS/JAXA)、「あかり」チーム

赤外線天文衛星「あかり」の残した貴重なデータを天文学研究に有効に活用するため、われわれは衛星運用終了後もデータ処理・解析・アーカイブ活動を継続している。2013年4月より始まった「あかりデータ処理・解析チーム」の活動は5年計画で、最初の3年間はデータ作成期間、後の2年がメンテナンス期間と位置づけられている。データ作成活動では、「あかり」の全天サーベイからのカタログ改訂版の作成、全天イメージマップの作成に加え、指向観測のデータを可能な限りすべて処理し、天文学的解析がすぐに行えるデータとしてアーカイブすることを目指している。

2014年秋季年会からの進展として、2014年12月に、遠赤外線全天イメージマップが一般に公開され、利用が始まっている。また、2015年3月には、液体ヘリウム冷却期に近・中間赤外線カメラ(IRC)が行った撮像観測について、処理済みデータが公開される。これらのデータに対する利用者説明会を、本年会中に実施する。

その他のデータに関しては、データ作成フェーズのほぼ中間地点にあたる2014年9月に、それまでの活動の進捗状況を確認し、今後のデータ作成・公開計画を確定する作業を行った。その結果は、既に tennet 等で告知されているが、本講演にて改めて説明する。

我々は、「あかり」データの科学的価値を高めるため、データに興味を持つ研究者の、データ作成・評価・アーカイブ活動への参加を歓迎します。また、独自の視点で大規模な系統的解析を行ったユーザーが作成したデータを収集し、アーカイブすることも行っています。お気軽に [iris\\_help@ir.isas.jaxa.jp](mailto:iris_help@ir.isas.jaxa.jp) までご連絡ください。